



TITLE:

尿路不定愁訴に対するツムラNo. 111清心蓮子飲の臨床効果

AUTHOR(S):

大野, 丞二; 園田, 孝夫; 石橋, 晃; 北川, 龍一; 竹内, 重
五郎; 町田, 豊平; 片山, 喬

CITATION:

大野, 丞二 ...[et al]. 尿路不定愁訴に対するツムラNo. 111清心蓮子飲の
臨床効果. 泌尿器科紀要 1986, 32(7): 1069-1073

ISSUE DATE:

1986-07

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/118853>

RIGHT:

尿路不定愁訴に対するツムラ No. 111 清心蓮子飲の臨床効果

順天堂大学医学部内科学教室（主任：大野丞二名誉教授）

大 野 丞 二

大阪大学医学部泌尿器科学教室

園 田 孝 夫

北里大学医学部泌尿器科学教室

石 橋 晃

順天堂大学医学部泌尿器科学教室

北 川 龍 一

東京医科歯科大学医学部第2内科学教室

武 内 重 五 郎

東京慈恵会医科大学医学部泌尿器科学教室

町 田 豊 平

富山医科薬科大学医学部泌尿器科学教室

片 山 喬

THE CLINICAL EFFECTS OF TSUMURA NO 111 SEISHIN-RENSI-IN ON IRREGULAR COMPLAINTS OF URINARY TRACT

Joji OHNO

*From the Department of Internal, Medicine Juntendo University
(Emeritas profersor)*

Takao SONODA

From the Department of Urology, Osaka University

Akira ISHIBASHI

From the Department of Urology, Kitasato University

Ryuichi KITAGAWA

From the Department of Urology, Juntendo University

Zyugoro TAKEUCHI

From the Department of the Second Internal Medicine, Tokyo-Ikashika University

Toyohai MACHIDA

From the Department of Urology, Tokyo Jikeikai-medical college

Takashi KATAYAMA

From the Department of Urology, Toyamaikayakka University

We studied the effects of Tsumura No. 111. *Seisin-rensi-in* on irregular complaints accompanying urological and renal diseases. Of 105 patients who visited our medical facilities, 99 served as the subject of this study. In principle, Tsumura *Seisin-rensi-in* was administered at a dose of 2.5 g \times 3 times/day before meals for 4 or more weeks. Of 99 cases, 8 showed excellent results (8.2%), and 42 showed positive effects (41.2%). Adverse effects were observed in 7 cases, and in 4 cases drug administration was discontinued.

This drug was recognized to be effective against irregular complaints accompanying chronic cystitis and acute or chronic pyelonephritis.

Key words: Seishin-renshiin, Irregular complaints of urinary tract

緒 言 対 象

今回、われわれは、泌尿器科疾患および腎疾患に伴う、不定愁訴に対する、ツムラ清心蓮子飲の効果を検討したので報告する。

対象となった患者は、Table 1のごとく、主に慢性膀胱炎、慢性前立腺炎および急・慢性腎盂腎炎などに伴ういわゆる尿路不定愁訴を訴える患者である。

Table 1-1. 清心蓮子飲研究会診断名（併用薬無し）

	極めて有用	有	用	どちらとも 言えない	有用性無し	合 計
慢性膀胱炎	3 (15.0)	12 (60.0)		4 (20.0)	1 ((5.0)	20(100.0)
慢性前立腺炎	2 (5.9)	17 (50.0)		1 (2.9)	14 (41.2)	34(100.0)
膀胱神経症	0	0		3 (75.0)	1 (25.0)	4(100.0)
前立腺肥大症	0	0		2 (50.0)	2 (50.0)	4(100.0)
急性膀胱炎	0	1(100.0)		0	0	1(100.0)
慢性尿道炎	1 (25.0)	0		2 (50.0)	1 (25.0)	4(100.0)
慢性腎盂腎炎	0	2(100.0)		0	0	2(100.0)
急性腎盂腎炎	0	0		0	0	0
神経因性膀胱	0	1(100.0)		0	0	1(100.0)
膀胱頭部硬化症	1 (33.3)	0		2 (66.6)	0	3 (99.9)
そ の 他	1 (14.3)	3 (42.9)		0	3 (42.9)	7(100.0)
合 計	8 (10.0)	36 (45.0)		14 (17.5)	22 (27.5)	80(100.0)

Table 1-2. 清心蓮子飲研究会診断名（併用薬有り）

	極めて有用	有	用	どちらとも 言えない	有用性無し	合 計
慢性膀胱炎	0	1 (25.0)	0	3 (75.0)	4 (100.0)	
慢性前立腺炎	0	0	2 (33.3)	4 (66.6)	6 (99.9)	
膀胱神経症	0	0	0	1 (100.0)	1 (100.0)	
前立腺肥大症	0	0	0	0	0	
急性膀胱炎	0	1 (100.0)	0	0	1 (100.0)	
慢性尿道炎	0	0	0	1 (100.0)	1 (100.0)	
慢性腎盂腎炎	0	1 (50.0)	1 (50.0)	0	2 (100.0)	
急性腎盂腎炎	0	1 (100.0)	0	0	1 (100.0)	
神経因性膀胱	0	0	0	0	0	
膀胱頭部硬化症	0	0	0	0	0	
その他	0	2 (66.6)	1 (33.3)	0	3 (99.9)	
合 計	0	6 (31.6)	4 (21.1)	9 (47.4)	19 (100.0)	

表記7施設に来院した患者数は、総計105例であり、そのうち、解析対象となったものは99例である。

投 与 方 法

ツムラ清心蓮子飲を、原則として、1回 2.5g 1日3回、食前に内服することとした。

投与期間は、4週間以上とし、観察期間は、投与前および投与開始後1週目、2週目、4週目に各所見において観察し、以後、投与が継続された場合、2週目ごとに経過観察することとした。

観察項目は、自覚症状と尿所見について行った。

併用薬剤は、原則として用いないこととしたが医師が必要と認めた場合には、薬剤名、投与量を明記し、

併用することとした。

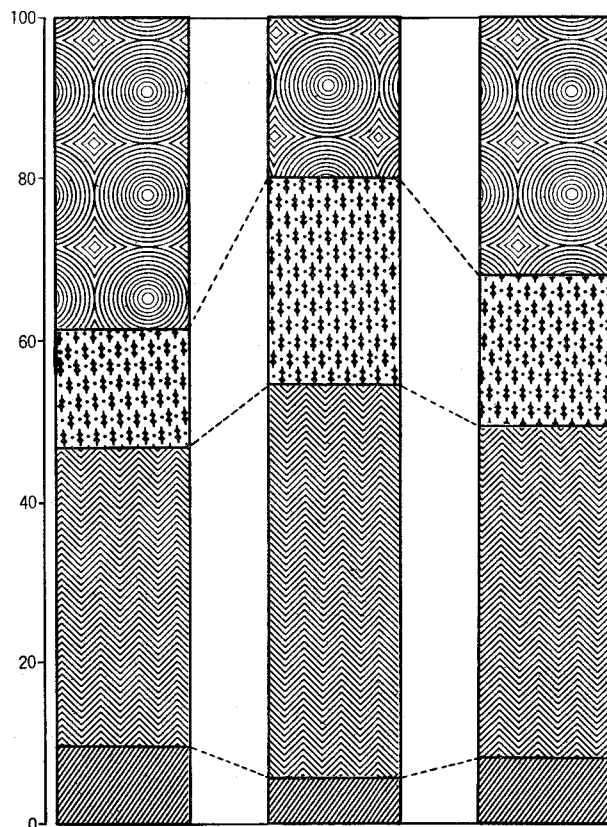
自覚症状、全般改善度、有用性の判定は医師の判断により行った。

結 果

1. 有用性および全般改善度

99例中、極めて有用9例(9.1%)、有用45例(45.5%)で、有用以上は54例(54.6%)であった。疾患別にみると、併用薬剤(抗生物質)を用いていない群で、慢性膀胱炎に伴う尿路不定愁訴に対し、19例中、極めて有用3例(15.8%)、有用12例(63.2%)、有用以上が15例(79.0%)にみられた。また、急・慢性腎盂腎炎に伴う不定愁訴に対しても、7例中、6例(85.7%)にみられた。

Table 2. No. 111 清心蓮子飲・男女別



	男性	%	女性	%	合計	%
●極めて有用	6	9.7	2	5.7	8	8.2
■有 用	23	37.1	19	48.6	42	41.2
□どちらとも言えない	9	14.5	9	25.7	18	18.6
○有用性なし	24	38.7	7	20.0	31	32.0
合 計	62	100.0	37	100.0	99	100.0

Table 3. No. 111 清心蓮子飲・年齢別

	極めて有用	有用	どちらとも 言えない	有用性無し	合 計
19~39	2 (6.7)	15 (50.0)	6 (20.0)	7 (23.3)	30 (100.0)
40~59	5 (12.5)	16 (40.0)	3 (7.5)	16 (40.0)	40 (100.0)
60~79	1 (5.6)	7 (38.9)	5 (27.8)	5 (27.8)	18 (100.1)
80~	0 (0)	2 (22.2)	4 (44.4)	3 (33.3)	9 (99.9)
不 明	0 (0)	1 (50.0)	0 (0)	1 (50.0)	2 (100.0)
合 計	8 (8.1)	41 (41.4)	18 (18.2)	32 (32.3)	99 (100.0)

Table 4. 全般改善度

	著明改善	改 善	不 変	増 悪	合 計
併用薬・無	9 (11.5)	40 (51.3)	28 (35.9)	1 (1.3)	78 (100.0)
併用薬・有	0 (0)	6 (37.5)	10 (62.5)	0 (0)	16 (100.0)
合 計	9 (9.6)	46 (48.9)	38 (40.4)	1 (1.1)	94 (100.0)

Table 5-1. 排尿困難

	投与前	4 w後
高 度	1	0
軽 度	10	5
無 し	0	6
合 計	11	11

P<0.05

Table 5-3. 残尿感

	投与前	4 w後
高 度	6	0
軽 度	11	8
無 し	1	10
合 計	18	18

P<0.05

Table 5-2. 下腹部不快感

	投与前	4 w後
高 度	6	3
軽 度	10	5
無 し	0	8
合 計	16	16

P<0.05

.7%)に有用性が認められた。男女間に有用度の差は
られなかったが、年齢の差では、若年の患者に対し
て、有用度が高く見られる傾向があった (Table 2,
3). 併用薬剤については、用いていない群により高い
有用性が認められた。全般改善度についても、同様の

傾向が認められた (Table 4).

2. 自覚症状については、投与4週後に来院した患
者について調べてみると、残尿感、下腹部不快感、排
尿困難について有意差をもって改善傾向が認められた
($P<0.05$), (Table 5). また、昼夜の排尿回数につい
ては、やや減少傾向が認められた。尿所見について
は、特に異常は認められなかった。

副 作 用

副作用については、99例中、7例に認められたが、
そのうち3例は軽微で、薬剤の投与を継続できた。中
止となったものは、下痢2例、症状悪化2例の合計4
例に認められた。他に尿閉が生じたため、中止とな
った症例がみられたが、本薬剤の影響によるものと思
われない。

考 察

漢方薬は、証に従い投薬されることが、東洋医学的にいわれているが、今回われわれは retrospective な立場から、証について調査を行った。結果は、赤ら顔の患者に対して、効が悪い傾向が認められたこと ($P<0.10$) より、ツムラ清心蓮子飲は、いわゆる漢方というところの実証タイプよりも、中～虚症の患者に有効性が認められる傾向が得られた。また、本症例中、30例が西洋薬の投与を受けていたにもかかわらず効果が得られていなかったが、ツムラ清心蓮子飲投与により、14例が有用以上の効果を取めたことは、興味深い。次に、ツムラ清心蓮子飲を構成する各生薬の薬理作用について述べる。

麦門冬は、ユリ科のジャノヒゲおよびナガバジャノヒゲの根の肥大部を乾燥したもので、抗炎症作用を有する。黄耆は、マメ科のキバナオウギなどの根を乾燥したもので、利尿作用、実験的腎炎の発生の抑制作用が認められている。甘草は、マメ科の植物で根などを乾燥して用いるが、抗炎症作用、抗アレルギー作用などが報告され、消化性潰瘍に関する実験が数多くなされている。茯苓は、サルノコシカケ科の、マツホドの菌核を乾燥したもので、古来より利尿作用を有するとされているが、いまだ詳細な研究は行われていない。黄耆は、シソ科のコガネバナの根の乾燥したもので、利尿作用、抗アレルギー作用、抗炎症作用、抗菌作用が報告されている。蓮肉は、スイレン科のハスの成熟果実で、平滑筋弛緩作用、有毒菌の毒性を中和する作用があるとされている。車前子は、オオバコ科のオオバコの成熟種子を乾燥したもので、利尿作用、試

験管内試験における皮膚真菌に対する成長抑制作用が報告されている。地骨皮は、ナス科のクコの根皮を乾燥したもので、解熱作用が認められている。人参は、ウコギ科のオクネニンジン細根を除いた根を乾燥したもので、神経の反射機構に効果があり、大脳皮質を刺激し、cholinoreactive system に働くと報告されていたが、コリン作動性作用は末梢性という報告もされている。また、中枢興奮作用があり、筋疲労に拮抗し抗ストレス作用を有する。

以上のことから、ツムラ清心蓮子飲は、尿路不定愁訴に対して、有用性の高い薬剤と思われる。

結 語

1. 泌尿器科および腎臓内科をおとずれた、尿路不定愁訴を訴える患者99例に、ツムラ清心蓮子飲を投与し、極めて有用9例 (9.1%)、有用45例 (45.5%)、有用以上54例 (54.6%) の結果を得た。

2. 慢性膀胱炎、急・慢性腎盂腎炎に伴う尿路不定愁訴に対して、特に高い有用性が認められた。

3. 漢方的には、赤ら顔の患者、いわゆる実証タイプに対しては、効果が現われにくい傾向が認められた ($P<0.10$)。

4. 副作用のため中止となったものは、下痢2例、症状悪化2例の合計4例に認められた。尿所見では、異常は認められなかった。

文 献

- 1) 和漢薬物学、初版、23～25他、南山堂、東京、1982

(1985年8月5日受付)